醫門玉石宜分錄

i 87

F
イ—128

Kitasato Memorial Medical Library

醫門玉石宜分録

〇或問曰醫者甚易局にて学問して識済めハ癒治をなす詳しく考半ハ醫者をなす玉石の別極ることや也我但しなら領民大切の命を預る醫業の為に設まて横死やん半をふ候よ思召ての半也秘〇答曰醫者をなす玉石の別とハ存し奉り候て存める術ともなれハ古生甚易局ニ相續四五に経の素達七証古今読解しをえ難経傷寒論の講釈を史集成ものを見て先輩の議論を口真似して医按要术を思惟しなす識をも急きも可也ニおゐ論むなハ五処一陶宅して道に癒治一向係る之白夫大論気其須論水随ることに能し風知らて皆是華がし候や識ニ盲人蛇を恐れめ仕方也なす城下町家の名同ハ只局中く

慶應義塾大学医学部北里図書

490.4
Im
No. 2177
旧 1 87
慶應義塾大學醫學部北里圖書
慶應義塾大学医学情報センター
昭和47年6月27日
富士川文庫
642
Kitasato Memorial Medical Library

入学する一通りの事ニて佛家ハ四五年も随心
して法物一對し瘡瘍の指南を深切ニ教示する
者あるニ稀也こそあれハ今時の医生をみるニ町家農
家の者の中ニ病身ニ生れて商の道ニ迂鈍く農家
ハ鍬鎌を取て雨寒ニあたるを厭ひなどニて續かず
なし嬾きもの故ニ又ハ世間の者又ハ親族
薬を勧めて医者ニ成しハ織さへ一の縁故
ハ出ニ後世の出来るニ依て佐人ハ学ぶ正ニ
瘡瘍ハ浮雲け世者と心得極那根と呼て説猛を
さへ八諸士ニさしも知さる心地して古轄ニ立振
舞寛ニ識者の笑ひさるこし花局中医者と成ハ立
成の弟ニハ不可有依古生さる者ハ城下佛道の
梁下ニて發さしたく思ふ小者ありとても技術を
入る家の療法混濁小児科等ニても支ニ出生の

家ニ多からハ負家あれハ心の経佛の見ニ実権も
なし足ハ大病局中より出ニ法も見る者多し立成
の年ハ哭とり其風情の技ニ関れ識世代ニ於
諸士陪臣等の不関法々ちれ動家を嗣て医
陪臣或二男三男等已前ふ学ふの人君ヲ奉る年も
如是ハ世に花医を学ふの技多有しく世そを以
医者を権那根と呼せさるも元来ハ帯刀許したる
人にあれハ世間ハ何時の燦爛到の英也業の
極を振ふ子せ何村の網引の手何譯ある貧ある更
英有出家ニ成ニ併今和尚と云ニとも呼ひ来
ハ子孫も世者し不如医者ニ成ニて来ニ保ちたれ
るや故ニ成さらしまうら後世を計る技多し
只に顔氏の為ニハ芳しれ流世間なふ業ニ医者ニ
ヤクロウ
業錢の為ニ釈者種を例しなニ撥け業袋の来出

Kitasato Memorial Medical Library

子偏字を云やうの醫者ら世にありたる斗ハ孫摂
ふ半してこれ凡学術技群の者ハその時弥しと史也
当世醫と如き者ハ試学の事ハ心易き道ふれハ施
せし雑解雑入ふる薬ふしハ試ハ免の時式ハ上
等式ハ中等有鍼灸きハ免也と称して其下り子
をハ鬼の草を存さて四天王の称こ心得凡の
自物論を出し式ハ拾州萬泰ヌ媚諂ひ薬を販ふ
るてもの商人のとく卯為充孫宿学の者を訓誨し
已のこ称者もる房言を吐る有る告ヒ成に於ん
癡瑚瑚珠の称也唐土古の醫ハ神農黄帝の
ましき玄有岐伯鬼臾区のしきさ有張仲景徐文伯
のしき老宇有葛洪孫真人のしきて銭醫有宋の
若东拠のしき補醫有范文正公の偏者寧むとか
るを得をハ良醫し如しと云司る深る(?)ハ道を

されをを得ハ良相と為をさもさる時ハ良醫と成
らんと云毛々時の醫ハ忠してからん如ふ々さも
ハ腐醫とも如へし其道をふる時ハ国を鬻ぎ(?)の醫と
なしん彼を知せざる時ハ村執(?)草村夫子と如しん其醫也
論ま古の醫とお偽善ひ如しさ可録也候医学数ヶ(?)
と云き冬耳も切支丹の邪法卯方の称下子属し又
此年利後(?)きて卯方ふりけ教弟学ふも迎ふり
其後土民困の事と修養学スを勉諸しけ除
子心を用ゐる者すき心仁其の者すてき学問を
らむ事ふ々籤を絶ひさる禄ふの罪ふ
諸物ふ成ふさる者ハ忍者ある人ふ
大免ホ学スきて此ふ卯の弘き不しきして賞
子為を史(?)うへしと別者室ても其の家きを恩ふの
称しき一卯こ世学世股の世学習世うしと云也の小法ふ

れ玉成と云ましらしん只術銭民の横死誤殺を憐
このふれれ愚なる卑士卸て医者ゝ多く如くなるゝ
ハ古ヲ始めり語ヲ曰医者多けれハ人夭ル学者多
けれハ孫党ると云ほかる者も定俸ヽ渡世の業とし
如く安子を罷ん者ヤねハ多しむ数ハ衣服を飾
る事称ヽ巧ニ只己のし功者ふよほし俗人を魅
うれハ辛覚ヽの口腹を営ん為計る卒医者
の年山ヽ如くる哉己鬼ヨ角ヨ議行まるそ中一
とーく学術要係の名医なし云医せすーしすら
き代世写手述を之の徒と称して学医ハ甚り廻くなる
なし云く即て時の蔽口を叩く侍医ヲ阻てらる
半多し哉治句平毅ゝきれく叶網リふれ口善けり
又盲人の識治等探ヲ医者の指針をーく何某ハ
療治功者と何某ハ下手也と己ら心ヨ叶ふ医者

是れハ最負偏頗して彼を誉ゆ是ハ命俗人ハ家
家内の病者を然て片時も快ならん事を
思ひ一ゑくハ識治の詞を信用して世学粗工の医
者を雜し惶きハ幸幸ヲ妄しすらハ死ヲ到れ九
詳を工ミヲして定業限有必竟の病也と云縱ひ
る技有医者も又識治ヲ離ねり嗟ふて此とお謀如
○某を歎て彼識治の策を信ヨ安有識治も又家ヲ
招図ヨく某ヨ某を制しすれハとも某子て病者收
命ヲ疑まさりなし云てる憐を敍つるの方今医
者も又識治を傳到帰ヨ報てく振うもん事を計る
技処とヨ有階兵某の識論を如者医者ヲ似て医
者ヨ死まる者有るヨ似てゝるさる蝙蝠の如
きするを秘よし医の命の毒を吐のゝ
○或曰下劣の者医と如する畢竟しかふハ何の診授ゝ

Kitasato Memorial Medical Library

ありと答曰本草綱目夏良心ヵ序文ニ云賈子不云乎
古之聖人不居朝廷必居醫卜之間醫可以賤簡為
哉と云しも不肖の者ハむかしより一きの藝を
○或曰醫を学ぶ者の人を救ふべき事又何の説
拠有乎答曰醫門法律卷一ニ云夫醫者非仁愛之士
不可託也非聡明達理不可任也非廉潔淳良不可
信也と云しも是程ハむつかしと之可心得
○或曰療治ハさほど難しき者ニて実ニ是を施され
ぬ説拠有乎答曰本草序例の中ニ云夫用薬如用
刑ニ誤テ不可誤ル則干人命用薬亦然と云し人の命
ハ再度生ることなし故ニ慎しむべき
べからん公の成敗を行ふにも同様なる
ならん東坡文集の七ニ云醫人ニ獄子同情と云
し意ハ病を治する者ハ殺人を知る役人と同

情なき大切ならずやと東坡の申されたり
○或曰醫ハ藝術なれハ深く学問せずとも能ニ機
轉ある人ハ可ならんか答曰倪惟徳機啓微序曰醫
為儒者之一事不知何代而両途之と云ニ古ハ
ハ儒者ヵ醫者を兼ねたるもの也然るにそれより醫者
と儒者と云ふ物ニ分ることと申されたり然
学問ヵ礎ニて療治ハ棟梁也機轉と云ハ才の
なれハ学問ハ的ニて偶中と云ふなるべし
○或曰世間の人病を受て死する時ハ醫者ニ殺され
たる抔と唱へる者も薬を不用して死ぬれハ
可死ぬ如何なる醫のましなりへ答曰凡病ニ有薬を
用て猶病ハ生きる事病ハ死ぬる其薬の誤して明虞
天民醫学正伝序ニ云不及幾千操殺人乎と申さ
れたり

○或曰扁鵲又ハ仲景等の醫ハ固より生知の聖人なれハ学ぶハもちんとし法方ハ規矩を脱ひかふべし学者曰生知の聖の上にさし等閑ヲ得さ絶し行ふ者とハ是れ晋太醫令王叔和脉經云夫醫藥爲用性命所繫和鵲至妙猶或加思仲景明審亦候形證一毫有疑則考校以求驗と云ゝ古の聖者と云とも加思求驗かふ況や庸才疎工の者何の量もなせして亡をなく者に對をるハ実ニ畏懼の甚し人と云べし

○或曰醫家の元祖ニ和気氏丹波氏の両家有之歟所る如何或家絆ふり学者曰雍州府志云半井家の祖和気廣世ハ中納言大中臣清麻呂の長子也文章生ニ補られ大学の別當とれ諸儒を会而陰陽の書を講論し新ニ薬經太素等を撰ハ廣世の長子時雨幼年より醫術を学て承安（六十一代 朱雀院）三年七月醫博士の号を給ふ又鍼博士と称ハ遂ニ典薬頭ニ任ハ是より後世ミ典薬頭とれ半井家ハ此裔也半井の第宜ハ元亀中正親町のミ有家ニ大井有て中宮を陽て半井ハ繁榮の称ニ司し年ハ雑用ニ充是ニ因て半井の号有と云し

○同書云 今大路家の祖丹波康頼ハ後漢靈帝の末裔也元丹波国矢田郡を領ハ始て丹波禰の姓を給ふ小従五位上叙ハ鍼博士を歴て醫術妙ニ通し療養宇宙ニ溢る永観（円融院 六十四代）二年十一月廿八日醫心方三十巻を以是を献ハ重斎蕭康醫の誉を得る是より後末孫蕭家を以呼実ハ丹波姓よ而氏を小森と号ス又得醫術姿裏ヘ三十石の禄を給ふ是を屠蘇料とハ安年臘月晦日屠蘇白

Kitasato Memorial Medical Library

薬并ニ度嶂散を製し其嘉院中且皮家と称する曲直
瀬正之丹家の術を傳て家を興ス旧記云　漢劉
躬錬紹芸為其子延寿院玄朔と号して其子
孫々　半井大和守至千五百石を継て今大路
中務大輔至千三百石を継て為世業頭と称す
○吉田家の事聞云近江国佐々木三郎秀義の次
男六郎厳秀封邑を吉田ニ受於て其末裔吉田と称
す八世の孫徳春其家を去治ニ至り鹿苑相公
足利義満公ニ謁し又勝定相公義持公ニ仕ヘ晩年医術
を嗜む其裔浄快ハ豊臣秀吉公ニ仕ヘ法印ヲ叙
し盛方院の号を拝す其子孫今吉田大蔵卿七
百石を給リ寄合御医師ニして江戸ニ仕ふ
○竹田家の事門葉云閑院太政大臣公季八世の裔
公経公の子竹田清水谷中納言公定卿十四代の
孫昌芳山城守と称し始て医術を学び我家嫡法
印と号ス其子孫今竹田治部卿千石を給り
寄合御医師ニて江戸ニ仕ふ　以上由て度言ヘ
の家柄ニ述ハ医官ハ古より天下凡の采なる
人守可考可詳
○或曰薬を用て験し世ニ附ハ祈祷又ハ呪ふとし
益る事有薬方ハ即て禁厭ヲ専らとする事何色から
足しある一き守ン曰吉より呪の方と云ハ
ざも一度世医方ハ一度と是非なるらん素問
移精変気論有又類経ニ云祝由者即符呪禁禳之法
用符呪以治病の事有又外臺秘要ニ載祝由一科
うり凡瘍病痛痒を覚知する者ハ筆之命ニ附て時ハ
安し屈し滞て不あれハ別痛苦有痛苦有時ハ彼
倍性の薬物を用一気を以て之等き滞を解の
ことき不通ハ滞の説位と薬性と鈍致して為命

和せさるゆゑに呪術も命を以て命に代へ一病帯を
除去るの術ニ止りて薬法とは異なる事なし是に依て
ハ人性倚なりん一を去る事能はゞ心術徹底せ
ざるより是非代謝云ふ其谷命其病を療して
そのかたを定め為に模島獣民虫之災異定其禁厭之
法云是薬と呪とを兼用ひもふとして精要記
云療病之方則有薬物醪醴也禁厭之法則有詛説
及方術也と云ふ仏道にハ瑜祇経ニ三密加持の
法有大成徳陀羅尼経大方等陀羅尼経随求陀羅
尼経末法神呪経等多く有是涅槃経云放三昧光
破无明闇如呪除鬼病として有ゝ神仏ともに呪法有
事なれバ是ぞ一道也医家より呪法を謗るべからず
らん呪家も医療を謗るべからずもしれハ其効の有と世
とハ巨ても術の至らざるゆゑ也
○或[illegible]
法ニ委せ置きし字但し医ニ於て咎せらる一き字誉
曰生应きを以殺を行ふ時ハ殺れし云代殺れ者を
怨みんと云ふ是明人として殺しさる事なれ
ハ是罪怨れ之し
○又問曰医者薬を用ゆる時病家に応対して曰け病
者子細也吐夜を恨せん於云ふ悔きハ言ふくさき
ハ死せる事誤治咒於ふるハ心を以て気也と諦め
る者有時ハ其之とし於らさる時ハ一生涯医を
怨る者多く有も則誤殺し口授ふるゝべし端一切
医に咎せしと云ハゝ殺されん換しと云べし若固五雑
俎云殺人者死法也而有不当死然者婦婦殺人不死
也庸医殺人不死也酷吏殺人不死也猛将殺人不
死也不惟不死且敬信之療獎之死者枕籍乎前而
不知也則法有時而窮也云ふ和漢ともに以上の如
きハ皆殺されん換也と云一き者乎

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library

Kitasato Memorial Medical Library